

2009年10月15日

## アルミナ製品の原料転換について

住友化学は、このたび、アルミナ製品について、原料であるボーキサイトの残渣の海洋投入処分を早期に終了するとともに、製品の安定的供給を継続していくため、2010年4月を目処に、原料転換を行うことといたしました。

アルミナ製品は、ボーキサイトを精製して得られる水酸化アルミニウムや、水酸化アルミニウムを基に作られるアルミナ、活性アルミナ、硫酸バンド、ポリ塩化アルミニウム、アルミン酸ソーダ等の総称です。アルミナ製品は、LED基板、ICパッケージや自動車プラグ用のファインセラミックス、また凝集剤や人工大理石、液晶ガラス基板の原料など、幅広い分野で使用されています。住友化学は、こうした各種のアルミナ製品を、愛媛工場（愛媛県新居浜市）において、これまで輸入ボーキサイトを原料に、年間約20万トン（アルミナ換算）生産してまいりました。

ボーキサイトを精製し水酸化アルミニウムを抽出した際に発生する残渣は、不溶解の鉱物成分から構成される物質で、住友化学は、国内法に基づき、海洋投入による処分を適切に実施しております。しかしながら、2005年の「ロンドン条約科学者グループ会合」において、日本は、2015年までにボーキサイト残渣の海洋投入を中止することを表明し、以来、アルミナ製品を生産する日本企業にとりましては、その対応が課題となっていました。高品質製品を多く有する住友化学は、ボーキサイト残渣の海洋投入処分を早期に終了するとともに、各種アルミナ製品の供給責任を果たすため、海外で生産される水酸化アルミニウムを原料に、高品質製品の生産を継続するべく検討してまいりました。

住友化学は、各種アルミナ製品について、海外で生産された水酸化アルミニウムを原料に、従来と同等の品質の製品が提供できることを確認し、このたび、主要なお客様の了解を得られたことから、2010年4月を目途に、原料の全面転換を行うこととしたものです。既に、凝集剤に使用する水酸化アルミニウムやアルミナの一部については、海外の水酸化アルミニウムを直接使用することでお客様の了解を得て、切り換えを実施するなど、残渣の投入量削減を実施し、海洋への負荷低減を図っています。2010年4月の原料の全面転換以降は、生産にともなう残渣が発生しないことに加え、その後設備内に残る残渣の処理を完了することで、海洋投入の完全中止をできるだけ早期に実現することとしています。

住友化学は、高機能、高品質で信頼性の高い製品を、環境により望ましい形で提供することを通じ、人々の豊かで快適な暮らしの実現に貢献し、経済の成長と社会の持続的な発展に寄与していく「サステイナブル・ケミストリー」を、引き続き推進してまいります。

以上